

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について

小学校6年生・中学校3年生を対象として平成31年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。今後の本校としての取組についてご説明します。

1. 教科学習状況調査の結果から

【平均正答率】

	国語	算数A
荏田東第一小学校	68.0%	68.0%
神奈川県(公立)	61.0%	67.0%
全国(公立)	63.8%	66.6%

国語・算数の調査の結果(平均正答率%)は、両方とも、国の平均正答率を上回っていました。

【国語】『国語』に関する設問では、国の平均正答率を4.2%上回っていました。領域別平均正答率については、「読むこと」領域の平均正答率が高く、国の平均正答率を4.5%上回っていました。「書くこと」領域の平均正答率がやや低く、国の平均正答率を2.0%上回るにとどまりました。

【算数】『算数』に関する設問では、国の平均正答率を1.4%上回っていました。領域別平均正答率については、「図形」領域の平均正答率が高く、国の平均正答率を6.6%上回っていました。「量と測定」領域の平均正答率がやや低く、国の平均正答率を0.1%下回りました。

2. 質問紙調査の結果から

生活面に関する設問では、ほとんどの児童が「自分にはよいところがある」と回答していました。

『自己肯定感』は国の平均を上回っています。また、「ものごとを最後までやりとげて、嬉しかったことがあるか」という設問では、肯定的な回答をする児童が多く、大きく国の平均を上回っていました。全般的に、課題になるような結果は出ませんでした。

3. 学校としての今後の取組

国語については、引き続き、目的や相手を意識した、日々の「書く」取組を充実させ、学び合いの質の向上を図るとともに、児童の伝え合う力の育成を進めていきます。また、漢字の書き取り、主語・述語、敬語、慣用句などを正しく使いこなす等の基礎的な力を確実に伸ばしていけるよう指導していきます。算数については、児童が主体的に学習に取り組めるよう、課題解決的な学習を心がけ、実践的な算数的活動を中心に据えていきます。また、児童が持っている『自己肯定感』や『粘り強さ』を生かして、より一層の変化成長を促すべく、全教科領域で子どもたちを支援していくとともに、全般的な調査結果には表れない一人ひとりの課題に寄り添っていきます。